

東京地方壮年連合通信 vol.77

TOKYO SOUNEN RENGOU TSUUSHIN

2018年3月17日

研修会報告

東京地方壮年連合会長 山田誠一

2018年2月17日(土)大久保バプテスト教会にて、第22回研修会を開催できましたことを報告いたします。今回は22教会から41名の参加があり、そのうち15名が女性だったことが特徴でしょうか。今回の発題が「礼拝の持ち方ーバプテスト教会として」だったせいもあるかもしれませんが。皆さんが常日頃、礼拝に関心があり大切にされていることなのだろうと思います。

一昨年度から意見交換を重視し、座席の配置を楕円形にしお互いの顔が見えるようにしました。今回は、質疑応答の時間を一時間とったのですが、足りないぐらい活発な語り合いです。なお、席上献金の32,750円は、東日本大震災被災地支援金として捧げました。感謝致します。

発題：今日における「バプテスト教会の礼拝」

講師：日本バプテスト連盟宣教研究所所長 朴 思郁先生

一第22回東京地方壮年連合研修会に参加させていただいてー

新大和バプテスト教会 田村俊彦（たむら としひこ）

「礼拝の持ち方ーバプテスト教会として」の主題をもって2月17日に開催された東京地方壮年連合主催の研修会開催のご案内をいただき、私は連合の枠を越え、神奈川県大和市から参加させていただきました。

私たちの教会は今、連盟に加盟申請中ですが、私たちの教会誕生の瞬間から日本にあって韓国移民教会としてスタートしました。韓国語の説教に日本語通訳ブースを備えました。聖霊が使徒達に臨まれた教会が誕生した瞬間から異邦人宣教の使命が始まり、ユダヤ人とギリシャ人が共に信仰生活をしてきた様子が使徒言行録2章に記されていますが、私たちの教会も日本人と韓国人、またその他の国々の人々が共に信仰生活を行う多文化宣教の使命の場として神様から用いられてきました。

もともとイエス様は他者への差別や排除ではない誰とでも共に捧げる礼拝、そして自分優先ではなく、他者に合わせ寄り添っていく宣教を教えられたのですが、講師の朴先生が引用されたヨハネ福音書4章のイエス様とサマリヤの女との井戸端での会話を通して、ユダヤ人のエルサレムでもない、サマリヤ人のゲリジム山でもない、一体誰に霊と真理をもって礼拝を捧げるのか？ その点で私たちが日々礼拝する本来の目的、礼拝での各構成要素は一体何を背景に、何を目的にして行っているのかを改めて学び、私にとってまさに聖書にある“目から鱗が落ちる”ように悟らせてくださいました。

私たちの教会は、今、バプテスト主義とは何かを新たに学んでいます。バプテストの特徴の中の重要な一つは“自覚的な信仰”であり、自覚的に信じることを告白した者にバプテスマを授け、自覚的な信仰による民主的教会運営により、総会の意思で教会の歩みを決定し、自覚的な信仰により神の御前に職分を果たし、自覚的な信仰により他の教会に従属せず各個教会主義を貫き、自覚的な信仰により国家に強制されず、政教分離と信仰の自由を主張します。私はこの研修会を通して今、私たちの教会の中で捧げられている毎回の礼拝の中の構成要素も、昔からの伝統で何となくそうだった・・・ではなく、この日の学びを生かし、信徒の皆が再び自覚的な信仰を学んでいき、自分たちの礼拝の意味をしっかりと知りながら、神様に礼拝を捧げていきたいと新たに決心しました。神様と講師の朴先生と東京地方壮年連合の皆様にご感謝いたします。

私たちの掲げた理想はどこへ行った

東北バプテスト連合壮年会会長

向井田 洋（むかいだ ひろし 仙台基督教会）

皆さん、壮年が青年だった頃と、青年が壮年になる頃の違いは何でしょうか。

私は理想の内容にあると思います。壮年になっても理想を高く持ち続けたいと思います。

昨今、私たちの教会を取り巻く状況がますます難しくなっているように思えます。もしかすると私たちの理想が遠のいているのではないのでしょうか。「教会の高齢化問題」などという言葉は聞き飽きた感があります。組織の機構改革、後継者の育成、献金目標の達成、教会学校の充実などが叫ばれてもう何年経過したのでしょうか。神学校奨学金制度、ジェン

ダーフリーやパワハラ対策、幼児の保育や教育の問題、来年には天皇代わりや改元が予定されています。どう対応していきますか。「壮年会」や「兄弟会」という信徒の単位が教会の中に存在してもいいのかという議論も聞こえてきそうです。こうした課題を抱える「バプテスト教会」は何処へ行くのでしょうか。暗中模索。手探り状態から抜け出せない私たち壮年がいます。教会のこうした様々な問題や課題はそのまま壮年の私たちの問題や課題でもあるのです。

今夏の全国壮年大会（仙台大会）では「バプテスト」にこだわって教会をいっしょに考えていきたいと思えます。遠い時代のバプテストが掲げた理想を私たちも持ちたいと思えます。そして、バプテストの祈りを共に分かち合いたいと願っています。本当に短い日程ですが、東日本大震災被災地訪問やバプテスト歴史散歩（街歩き）などのオプションツアーも用意しております。

ことしの大会のお世話を担当するのは私たち東北連合壮年会です。北は青森バプテスト教会から南の郡山コスモス通りキリスト教会まで（距離は実に480^{キロ}）15の教会の壮年が皆様の参加をお待ち申し上げます。

第53回全国壮年大会 in 仙台

日時 2018年8月17日（金）～18日（土）

場所 尚綱学院（しょうけいがくいん）中学校高等学校礼拝堂

「2018年度に行われる協力伝道会議について」

日本バプテスト連盟宣教部部長 松藤一作（まつふじ いさく）

日本バプテスト連盟は、昨年結成70年を迎えました。結成当初の「協力伝道」のイメージは、共に協力し合って新しい教会を生み出すことだったことでしょう。16教会から始まった連盟の歩みは、こうした協力伝道の交わりと祈りの中で、323の教会・伝道所へと、その宣教が広がってきました。

その間、米国南部バプテストの同胞から受けてきた支援は、測り知れないほど大きなものでした。人的にも財的にも、そして祈りにおいて支えられ、私たちは今日まで歩んでくることが出来ました。

2018年度、連盟宣教部は13連合の協力を得て、全国で「協力伝道会議」を実施していきます。これまでの「協力伝道」の歩みを振り返りつつ、また諸教会や現代社会の状況とそこにある課題を踏まえながら、これからの福音宣教と協力伝道の在り方についてみんなで考えていきたいと願

っています。教会はいま、時代の変化を受けて、これまでの伝道方策では立ちゆかない現実を抱えています。決して変わる事のない福音に希望をもつ教会だからこそ、時代の変化の中で、教会の在り方や地域へのアプローチが変わってくることは必然だと感じています。

今回の協力伝道会議は、これまで行われてきた宣教会議とは違い、諸教会が主体的に関わり、各個教会の現状や課題、そして時代の変化の中で始められている新たな取り組みなどを分かち合い、これからの福音宣教、教会形成、そして協力伝道の在り方について意見を交わしていきます。協力伝道の主体は一つひとつの教会であり、協力伝道の働きの際は、こうした各個教会の現状の中にあると考えるからです。話し合われるテーマや切り口は、各連合の特徴を活かしたスタイルで実施されます。

これまで、私たちが協力伝道の中で目指してきたもの、前提としてきた枠組みなどを捉え直し、そこに取りこぼしてきたものはなかったか、これからの時代にとって、教会はどのような可能性と方向性を見出していくことが出来るのか、みんなで一緒に立ち止まって考えていきたいと願っています。連盟もまた、基金・資金時代から、協力伝道献金時代へと入っています。協力伝道の在り方や方向性も、大きな転換を迫られています。

東京連合でも、この会議にむけた準備が始められようとしています。ぜひ壮年の方々にも積極的に参加していただき、これからの宣教、教会、協力伝道の営みについて一緒に考えていきたいと願っています。

日本バプテスト連盟 Japan Baptist Convention

宣教部 松藤一作

e-mail matsufuji@bapren.jp

◇ 2017年度神学校献金(目標500万円)のお願い ◇

日頃の神学生支援に対するご理解に感謝申し上げます。本年度も残り少ないですが、500万円の目標に向かっての皆様からの祈りとサポートをお願いいたします。

発行人：東京地方壮年連合会長 山田誠一

編集人：佐藤洋二

連絡先：千葉県柏市東中新宿4-7-5-104 〒277-0061

tel. 090-9834-9464 e-mail. qp4316_1107yahoo.co.jp